

そう だい
総 題 「教育—天国に備える教育」

だいきゅう か きょうかい きょういく
第 9 課 教会と教育

りゅう じょんひょん
柳 鍾 鉉

いち あんそくにち ご
1. 安息日午後

こんしゅう あんしよせいく しんと てがみ に ろく はち
今週の暗唱聖句は、テサロニケの信徒への手紙—2：6～8です。
きょうかい こころ たいわ ば ひとりひとり めぐ せいちよう かみ かみ けいかく たい り かい ふか
教会は、心からの対話がなされる場で一人一人が恵みによって成長し、神と神のご計画に対して理解を深
められる安全な環境（場所）でなければなりません。

に にちようび しん きょうきょういく
2. 日曜日：真のキリスト教教育

イエスは譬え話を通して、人々に分かりやすく神様の言葉を話された。その良い例の一つがルカ10：30
からの「良きサマリア人」の話である。律法学者の質問「私の隣人は誰のことですか」に対して、イエスは
「良きサマリア人」の話をされた。真のキリスト教教育は、キリストのように人間的な偏見や先入観、民
族、身分、社会的な地位を乗り越えて人々に愛を持って接することである。そして一人一人がとても大切な存在
であることを知り、そのように接するように教えることである。

さん げつようび ひかり い め
3. 月曜日：光として生きるように召されて

「あなたがたは世の光である」（マタイ5：14）とイエスは弟子たちに話された。このイエスの言葉の意味を
注意深く理解する必要がある。イエスは「世の光になるように務めなさい」とは決して話されなかった。イエス
はすでに「あなたがたは世の光である」と^{※1}宣言されたのである。問題は自分が主の弟子として世の光であるこ
とを忘れ、光として生きることをしないことである。

※1 宣言された：ハッキリと言った

よん かようび でし い
4. 火曜日：弟子として生きる

イエスは、私たちを弟子として招いてくださった。それはただ1日だけの弟子ではなく^{※2}生涯に亘る弟子なのである。弟子は自分を招いてくれたイエスの下で学び、その教えに従い、生きる者である。全ての主（イエス）の弟子にはイエスが生きられたように生きることが求められている。イエスは困っている人を助け、福音の良い知らせをつたえ、ご自分の命を捨てて多くの人々を救いに導いた。イエスはナザレの会堂で安息日にイザヤ書

ろくじゅういっしょう ろうどく
6 1 章を朗読することによって、ご自分の使命を告げ知らせ確かなものにされた。

※2 生涯に亘る：死ぬまで

5. 水曜日：真理を探究する

せいしょ わたし かか むずか じんせい もんだい たい こた も たと わたし なにも
聖書は、私たちが抱えている難しい人生の問題に対して答えを持っている。例えば、私たちは何者なの
か。なぜここにいるのか。どのように生きるべきなのか。死んだらどうなるのか。なぜ悪や苦しみが存在するのか。
もし、私たちが神の言葉からこれらの問いに対する答えを見つけようと熱心に※3探究するのであれば、その
こた かなら みいだ さが きょうきょういく しん い み
答えは必ず※4見出されるであろう。ここにキリスト教教育の真の意味がある。

※3 探究する：探す

※4 見出される：見つかる

6. 木曜日：ともに生きる

しゅ でし め わたし じんぶん すく い もの い
主（イエス）の弟子として※5召された私たちは、自分だけが救われるために生きる者ではない。ともに生きるた
め召されたのだ。テサロニケの信徒への手紙一2：8で、パウロはテサロニケ人たちに次のような驚く言葉を
残している。「自分の命さえ喜んで与えたいと願っている」。それを可能にしてくださるのは、愛である。イエス
がご自分の命を喜んで捨ててくれたように、私たちもともに生きるために兄弟姉妹のために命を捨てるので
ある。私たちは教会で聖書を通してイエスとともに生きることを学ぶのである。

※5 召された：呼ばれた